

平成 26 年度自己評価シート（中間評価）

学校名 三次市立吉舎中学校

中期経営目標						
	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	評価	達成状況	担当部等
1 確かな学力						
	基礎的・基本的な知識・技能の定着	反復練習の徹底	実力テスト 50 点以上の生徒の割合（5 教科平均）	1年 A 2年 C 3年 B	1年 73.5% 2年 38.7% 3年 44.1% (9 月実績)	教務部
			保護者の満足度（アンケート「学力を高める取組をしている」）	A	98%	
	習得した知識や技能を使って課題を解決する力の育成	思考場面を生かす授業づくり	三次市学力到達度検査の活用力の正答率（5 教科平均）		-	
	1 時間以上家庭で学習できる生徒の育成	学習方法の指導の充実	家庭学習 1 時間以上の生徒の割合（アンケート）	1年 A 2年 B 3年 B	1年 81.3% 2年 48.4% 3年 50.0%	
家庭学習の定着における保護者の満足度（アンケート）			B	78%		

【評価結果の分析】

- ・実力テストの正答率は、1 年生で全教科目標を達成した。2・3 年生は大きく目標値を下回っている。特に 2 年生は、社会・数学・理科、3 年生は理科に課題がある。
- ・家庭学習では、1 年生は、目標値を大きく超えているが、2・3 年生は目標値を大きく下回っている。学校全体でも、59.9%で目標値を超えていない。

【今後の改善方策】

（知識・技能の定着）

- ・3 年生については、夏休み後半に理科のみの補習を行っている。自主学習ノートの取り組みを引き続き行うとともに、個別に対応していきたい。また、文化祭終了後より補習の取り組みを始める予定である。
- ・2 年生は、学力差が大きい。支援の必要な生徒に対しては、学年会で担当を決め、自主学習ノートを利用して、東書 Web などから問題を貼り付け、やりきらせるようにしている。また、10 月より特別な指導・支援のための非常勤講師が配置され、教科担当と連携をとりながら学力向上をすすめている。
- ・1 年生は、目標値を超えているが、男女間の学力差が大きい。2 年生と同様な取組みを進めていきたい。非常勤講師は 1 年生の授業にも出ている。
- ・家庭学習の充実（ルーティンチェック表の活用、自主学習ノートの充実）
- ・授業改善にむけた研修の実施
- ・今年度、書く、読む、表現力、集中力を鍛えるために、天風録に取り組んでいる。1 週間で 2 つのコラムを全校生徒が視写できるレベルを目標に取り組んできた。現在、全校生徒が 2 つのコラムを書き上げることができているので、コラムの感想を書く、見出しを考えることをさせていきたい。

(家庭学習)

- ・1年生は、入学当初より家庭学習の習慣化に向けた指導を徹底して行っており、目標値を達成している。
- ・2・3年生も昨年度からの取組みである吉舎中学校スタンダード(ルーティンチェック表)の定着はできている。今後はその徹底とともに、教科担当とも連携しながら授業、学級の雰囲気づくりを大事にしていきたい。
- ・自主学习ノートの定着と学力的に課題のある生徒にかかわって学年会で個別指導を行っている。個別への指導の充実とともに学習方法等の共有をはかりながら、家庭における学習の量と質の向上を図っていく。また、授業において興味・関心を高める指導方法の工夫改善を図るよう授業研究を充実していく。
- ・吉舎中学校スタンダードに係る連携を継続していく。
- ・個別指導に関わり保護者との連携を密に取っていく。
- ・学校の現状、高校入試などの現状、社会情勢など、保護者対象の研修を仕組み、実態を知っていく(今年度、地区懇の講演で地元高校の先生から話を聞くことができた)

2 豊かな心					
自己肯定感の育成	生徒会委員会活動の活性化	生徒の満足度 (アンケート「活発だ と思う」)	1年 A 2年 A 3年 A	1年 84.4% 2年 83.3% 3年 88.2%	生徒指導部
	日常的な活動に対する評価の充実	生徒の自己肯定感 (アンケート「周りか ら認められている」)	1年 B 2年 B 3年 A	1年 53.1% 2年 54.6% 3年 64.7%	
		いじめ認知・解決 (アンケート)	A	100%	
	異学年交流の充実	生徒の自己肯定感 (アンケート「よいと ころがある」)	1年 C 2年 B 3年 A	1年 53.1% 2年 64.5% 3年 76.5%	

【評価結果の分析】

(委員会活動活性化)

- ・「生徒会活動は活発だと思う」という質問に対してどの学年も目標値を上回っている。

(体験活動の充実)

- ・「自分のよさは、周りの人から認められていると思う」という質問に対して、学年が上がるごとに伸びており、3年生は目標値を超えている。しかし、学校全体では、目標値に達していない。
- ・「いじめ」について、学期に2回程度、アンケートを実施し、どんな些細なことでも、速やかに複数体制で個別に聞き取りを行なっている。大半がからかいや嫌な言い方、じゃれあいからのエスカレートした言動であった。しかし、見逃すことなく聞き取り、分かった事実については個別に指導を行った。

(相互理解を深める)

- ・「自分には良いところがある」という質問に対して、学年が上がるごとに伸びているが学校全体としては目標値に達していない。3年生のみ目標値を超えている。ただ、2・3年生は前年度より伸びてきている。

(3か条の徹底)

- ・授業に関しては、目標値を大きく上回ることができた。入学式以降、全校での徹底した取組みが成果となった。しかし、生活に関しては、返事・整理整頓に課題がある。特に整理整頓ができない生徒が多い。環境に関しては、目標値を若干下回ったが、生徒会の取組みである「無言・膝付き・気づき」掃除が成果を上げた。

【今後の改善方策】

（委員会活動活性化）

- ・やはり3年生が一番高い。上級生がリーダーシップをとり、活動が進んでいるからと思われる。昨年度から始めた学校朝会での委員会発表はよい刺激となり、活動が活発になっている。
- ・文化祭、生徒会役員改選など、これからの活動に積極的に取り組ませ、達成感が感じられるよう取り組む。生徒にさせる部分はしっかり任せ、ほめることで充実感も味わわせたい。

（体験活動の充実）

- ・生徒の約半数は満足できているが、目標値に届いていない。3年生はリーダーとして活動しているので、周りからの声かけも多く、目標値を上回ることができたのではないかと考える。1・2年生も行事などを通じて、積極的に言動をほめ、通信などで全体に広げていく。生徒間でのサポートも大事にしていきたい。
- ・「いじめ」の解決に向け定期的なアンケートを実施し、早期発見・早期解決に対応する体制を常に整えておく。

（相互理解を深める）

- ・1年生は毎年、目標値を大きく下回る。学習や部活動などで難しさを感じ、ほめられることも少ない。そのことが結果として出たのではないかと考える。ただ、学年が上がるごとに伸びてきているので、学校生活に適應しながら自信をつけてきていると思われる。班活動や総合、教科学習の中で活躍できる場面を多く作り、しっかり評価することをしていきたい。

（3か条の徹底）

- ・授業を大事にすることを最優先にしながら、生活面を上げていきたい。整理整頓では、ロッカーの使い方を図や写真で示したり、テープで分けたりしていく。「返事」は、意識させるように、発表などで指名したときに「はい」と言うまで待つなど、授業の中で取り組んでいきたい。また、部活動でも、指示に対して返事を返すように取り組む。